

会派代表質問

① 海岸地域の交流ビジョンについて
② 集落枠による防災体制について

自 民

土屋 忠和 議員



問 白里海岸地域の活性化について観光事業の展望を市長に伺いたい。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により2020東京オリンピックは延期されました。そして、本市の通年観光事業の花火大会等のイベントも無くなりました。市民の皆様は楽しみである観光・イベント事業につきまして、今後どのような考えと展望をお持ちでしょうか。

答 現段階では、今後の観光事業について、明確な方針を打ち出すという事は困難でございますが、コロナウイルス感染症予防のワクチンや薬の開発状況等を見据えながら、3密の回避など、感染防止対策を徹底した上で地域活性化に向けたイベントを開催し、市民の皆様と共に、本市を盛り上げて参りたいと考えております。

問 白里海岸地域の地域交流のビジョンについて市長に伺いたい。海のある街づくり、田舎に暮らしたい移住者の受入れ、そして、海岸地域の活性化、人の流れを生かした将来のビジョンについて、ご意見をお聞かせください。
答 白里海岸という優れた観光資源を活用した様々なイベントを実施し地域の魅力発信と交流人口の増加を図ると共に、一年を通して訪れる事のできる地域交流拠点を整備する事により新たな賑わいを創出し地域の活性化を図って参りたいと考えております。民間事業者の資金やノウハウを活用するなど、実現に向けて取り組んで参りたいと考えております。問 災害対応について、本市は、山間集落地もあれば、海岸集落、地盤の低い集落、排水が不備な集落、河川の傍にある集落地など、各家庭の

関連質問

小倉利昭 議員



問 昨年の連続的に発生した災害の検証報告の中で、避難場所の開設マニュアルがないために誘導や受入れに戸惑ったとあったが、現在そのマニュアルは確立されているか。

答 マニュアルの内容となる風水害対応での避難場所配備職員の事前指名、配備品一覧、開設準備から避難者受け入れまでの流れ、本部との連携、情報共有などは整理できたものの、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い新たに感染防止対策が必要となったためこの対応を含めた形での調整を進めております。

問 避難場所でのコロナ感染症防止対策として、備品の確保は完了しているか。

答 消毒液、スプレー容器、体温計マスク、ハンドソープ、ゴム手袋などは計画数量を確保しておりますが、避難場所内の密接防止の間仕切りと床に敷く災害用マットの残数が年度内の入予定となっております。



関連質問

中野 修 議員



波乗り道路アンダーパス陸間の運用について

問 1点目、運用については、千葉県と協議が進められているとのことですが、その後の進捗状況を。2点目、陸間の扉はアラートにより自動閉鎖するシステムで、津波到達前に閉鎖することですが、中央海岸には波乗り道路の出口もあり、駐車場を含めた海岸全体から逃げ遅れが出ないように閉鎖が可能なのか。また、夜間や台風、大雨、雪、霧など、天候不良で見通しの悪い時に監視制御設備で対応が可能なのか。3点目、千葉県では津波対策としての整備とのことですが、台風、高潮、海が荒れた際には、海水がアンダーパスを越えることが実際にありますが、その際は陸間の扉の閉鎖は行われるのか、お伺いいたします。

答 進捗状況ですが、今後、扉や監視制御設備、非常用発電設備が設置される予定であり、今年度内の完了を目指して進められていると伺っております。運用方法については、扉の閉鎖基準や閉鎖されるまでの時間、閉鎖の際の周知方法など、千葉県と継続して協議を進めているところでございます。市といたしましては、逃げ遅れがあつてはならないものと強く認識しております。陸間閉鎖の詳細な運用については、関係部署と連携を図りながら、千葉県と協議を進めているところでございます。監視制御設備は、陸間の閉鎖が確実に行われていることを確認するためカメラの設置が予定されていると伺っております。津波以外での陸間の閉鎖につきましては、千葉県と協議を進めているところでございます。安全な運用が出来るよう、関係各所と協議いただきたいと思います。

個人質問

有機学校給食の導入と無農薬有機ブランドの確立を！

黒須 俊隆 議員



有機給食を導入する学校が全国で増えていきます。その中でも本県のいすみ市と木更津市が、特に大きく新聞やテレビで取り上げられています。私は、ぜひ本市の農業にも有機農業や無農薬低農薬農業を積極的に進め、それをブランド化して農業収入を増やしていくための施策が必要だと以前から言ってきました。また、無農薬有機農業に取り組んでいる市町村というのは、田舎に移住・定住しようという方々が、よいイメージを持つと聞いています。

問 市内の無農薬農家や有機農家はどの程度おりますか。

答 市内では、一部の農家で無農薬や有機農業の作物を栽培している事例はございますが、取組農家数など具体的な状況は把握しておりません。ぜひ把握していただきたいと思っております。これは農政課だけの問題ではありません。市は、農業が基幹産業だと言っているのだから、基幹産業の実態調査として企画政策課として把握するよう要望します。

問 農林水産省も学校給食に有機農産物を導入していくことに支援をしていると聞いています。どのような内容ですか。

答 農林水産省では、有機農業に係る人材育成、産地づくり、販売機会の多様化、消費者の理解の増進、技術開発・調査等を通じ、有機農業の取組拡大を推進しております。このような中、有機農産物の新たな販路として、学校給食を位置づけ、有機学校給食の導入の取組を支援しているところでございます。

問 本市の小中学校でも有機学校給食を導入する考えはありますか。

答 本市における学校給食におきましては、地産地消の観点から、できるだけ市内の農家の方が作る野菜等を活用したいと考えておりますが、有機農産物を使用する有機学校給食につきましては、食材の価格や必要数量の確保など課題もあり、現在のところは導入する考えはございません。本市では、農業の補助に大変熱心で、毎年農業への補助金を交付しています。農業散布に熱心な市ではなく、有機農業を支援し、ブランド化を図り、本市の産業として積極的に育成していかげですか。学校給食で有機給食を行うことになれば、有機農家にとって安定した販路ができることとなります。農家としても積極的に有機農業をやります。何もいきなり学校給食全てを有機農産物にするということではありません。米から始めるとか、野菜を一つひとつ増やしていく方がいいわけです。本市の給食は自校方式なので、学校ごとに仕入れしやすいものから始めていくことを検討したいと思います。欧米では残留農薬の基準が厳しくなっています。一方で日本は緩くなっています。東京オリンピックの選手村では、ヨーロッパ選手団は日本の野菜を食べないと言われているくらい日本は残留農薬大国です。農業支援よりも有機農業支援策の第一環として有機給食の導入を進めることを要望します。次代を担う子どもたちの健康を守るのが第一です。給食費が高いからやれないというのはなく、すぐ近くに有機給食を導入しているいすみ市や木更津市があるのだから、研究し、実現するよう要望します。